

◎解答はすべて三枚目の解答用紙に記入しなさい。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数制限のある問題はすべて句読点を一字に数えます。

まさか、まど・みちおさんが亡くなるなんて思ってもみなかった。作家である宇野千代さんが百歳近くだったころ、たしか「私は死なないような気がする」と発言したように記憶している。まどさんもその日その日を生きながらえ、それを永遠に繰り返すような雰囲気があった。

二月二十八日の午前中に息を引き取られたことを知り、お線香をあげて合掌したのだが、そのあと私は①お尻のあたりがムズムズしてきて、コマネズミのようになった。だいにじにしていた(！)お葉書がない。どこを探してもない。私が勝手にウメボシハガキと呼んでいた一枚が――。

ハルキ文庫『まど・みちお詩集』の編・解説の仕事させていただいたことがきっかけで、一度だけお目にかかり、季節のご挨拶だったか、これも一度だけウメボシをお送りしたことがあったのだ。自分が漬けたウメボシなどという芸当ができるはずもなく、甘めで大粒の紀州梅を買ってお送りした、そのお礼のハガキである。甘めだから気に入られたのか、ウメボシに頼ずりするように書かれ、入院中のばあさんにも持っていくてやりたいと思います、とあった。慣例のハガキでも、心情を照らすことができるのだと感心したのだったが。亡くなって数日たつ今現在も探し出せないでいる。「やぎさんゆうびん」さながら、きっと私は食べてしまったのだ。

ところで、『まど・みちお全詩集』(理論社)の中で、これほど思い丸をつけた詩がある。まどさんには「一ねんせいになったら」という童謡があり、「ともだち ひやくにん できるかな」の百人という数の多さが、かねてから気になっていた。しかし、そこには深い考えがあったのだ、と気づかされた詩である。タイトルは「うつくしい ことば」。

たのしそくに 口にしあっている

――ともだち

という うつくしい ことばを

ともだちで ないものには

しらんぷり しておこうよ

という いみにして：

しみじみ つぶやきあっている

――にくしん

という しみじみした ことばを

②あかの たにんなどは
ほつとこうよ

という いみにして：

こういう耳に痛い詩は、全詩集の中にはほとんどない。これしかないといつてもいいくらいである。けれども、この詩をまどさんが書いたということは大変重要だと思う。

「ともだち」という美しいことばは区分けのことばである。「ともだち」じゃない人への無関心、おそれ、反発などがその裏側にひそんでいる。それははじめの芽にもなりうるだろう。「ともだち ひやくにん できるかな」に、こめられているのは、③はじめの芽をふつとばそうとする百の勢いではないだろうか。

「にくしん」というしみじみしたことばも、区分けのことばだ。裏側には同様に、無関心、おそれ、反発などがひそみ、おおもとに

※はエゴイズムが黒々と影を落としている。

私にはもうじき三歳になる男の孫がいる。時々彼を連れて近所の児童館へ行く。先日、児童館は母子連れでにぎわっていた。さまざまな遊び道具に群がる子どもと、それを見守る母親が、フロアに所狭しと座り、私は孫の凜から目を離さずにいるのが精いっぱい、なかなか彼に近寄れなかった。凜は慣れたもので、あちらこちら軽々と飛び回っている。柵からおもちやの電車の入った大きなカゴを引っ張りだし、向かいにいた一歳くらいの男の子に、はいどーじよと次々に電車を手渡す。だが④加減を知らない。男の子はかえきれない電車を足もとに落とし始めた。

その時、二人を見ていた別のお母さんが、優しく制してくれた。凜は納得したようだった。万事がそんなふうで、そこにいたお母さんたちのふるまいのごく自然な公正さ(というのだろうか)に感謝した。自分の子に、いい子になつてもらいたいという願いは、自分自身もいい母親にならなければならない姿勢を促す。自分の子がかわいいというエゴを肥大化させずに、自分のエゴから距離をとろうという冷静さが、その人を高める。

⑤「うつくしいことば」の危険性を衝いたまどさんは、百四歳まで生きて、ふつうの人をまっとうした。偉そうになつたりはしなかった。それは謙虚というのではない。⑥あたりまえの暮らしに、あたりまえの気持ちで向かえば、おのずとひとつひとつの言動が定まってくるのだと思う。

(井坂洋子『ともだちひやくにん』による)
※(注)エゴイズム・エゴ：利己主義。

問一 ――― ①「お尻のあたりがムズムズしてきて」とは、どういう思いを表していますか。答えなさい。

問二 ――― ②「あかの たにんなどは ほつとこうよ」について、これと反対の行動の例を三十字以内の一文でぬき出し最初と最後の五文字を答えなさい。

問三 ――― ③「はじめの芽をふつとばそうとする百の勢いではないだろうか」について、ここで「百」とはどういうことを言っているのですか。答えなさい。

問四 ――― ⑤「『うつくしいことば』の危険性」とはどういうことですか。まどさんの詩中の~~~~~部をふまえて説明しなさい。

問五 ――― ⑥について、筆者は「まどさん」の葉書のどういう点に対してそう考えていますか。説明しなさい。

問六 ⑦ 次の④、⑤のカタカナ部を漢字に直しなさい。

④ ⑦で直した漢字について、~~~~~④「加減」と同じ成り立ちになるように組み合わせさせて二字熟語を三つ完成させなさい。

【例】

質問をツイカする。 ↓追加
車のスピードをゲンソクする。 ↓減速

- ① 君の好きな本のソクヘンが出ましたね。
② 事件をシュザイする。
③ 根も葉もない噂だとダンゲンする。
④ これぐらいのことならばヨウイに解決できる。
⑤ この問題の解決はナンコウしている。
⑥ 小数点以下をシシヤ五入する。

第一日 (二枚目)

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学一年生の「このちゃん」たちのチームは老人ホームに来ており、介護スタッフの手伝いなどのボランティアを体験している。

敬太郎とタボがこまった顔をするのを見て、このちゃんは自分がチームリーダーであるのを思い出した。

「ゆうかちゃん、①とりあえずいまは、自分の老後よりここにいる人たちのことを考えよう。みんな、いやでも年をとっちゃったんだから、しょうがないよ。あたしたちが暗い顔してたら、みんなも暗い気持ちになっちゃうし、ちよつとむりしても、最後まで笑ってよう。ね」

から元気をふりしぼり、「フアイト!」とこぶしを突きあげる。
フアイト!とバスケット部の仲間たちなら返してくれるはずだった。

が、ゆうかはばたんとテーブルに顔をふして言った。

「その体育会系のノリ、あたしはむり」 (中略)

チームSの最後の仕事は、「話し相手」だった。二階のカフェテリアでくつろいでいるお年よりたちとの交流。このちゃんに声をかけてくれたのは、どこかかわいらしい上品なおばあさんで、のんびりと言葉を交わしているうちに、このちゃんはゆうかの一撃によるダメージから「a」立ちなおつていった。

「おばあちゃんは、いま、おいくつですか」

「ええつと、八十六になるかしら」

「わあ、すごい」

「どうして? だれでも生きていれば年なんてとるものよ」

「でも、八十六年も生きるなんて、すごいです。あたし、十三年目でも、ときどき疲れちゃうから」

「あら、ま、どうして?」

おばあさんが灰色の眉をよせる。

②いけない。このちゃんはあわてて撤回した。

「うそ、うそ。あたし、ぜんぜん疲れません。毎日、すつごく楽しいです」
安心してもらおうと力をこめたのに、なぜだか おばあさんはさびしげな目をしておしだまつた。

「ゆうかちゃん、待って!」

千鶴のさけび声したのは、そのときだ。

ハツとふりむいたこのちゃんの目に、泣きながら廊下へ飛びだしていくゆうかの姿が映った。そのすぐあとを千鶴が追っていく。

ふたりがカフェテリアから去ったのを見て、「b」このちゃんも腰をうかした。

「すみません。ちよつと……」

一瞬、見失ったふたりを見つけたのは、二階の女子トイレだった。洗面台にしなだれかかって泣いているゆうかをなだめるように、千鶴が背なかをさすってやっていた。

「ゆうかちゃん、だいじょうぶ? どうしたの」

なにを聞いても、ゆうかはただだしやくりあげるばかり。

代わりに横から千鶴が答えた。

「おばあちゃんと、ゆうかちゃんと、わたしと、三人で話してたの。そしたら、」

「c」ゆうかちゃんが泣きだして」

「理由もなく?」

「理由は、その最初ね、おばあちゃんがゆうかちゃんに言ったの。なやみがあるなら話してちよつだい、つて。なんでかわかんないけど、ゆうかちゃんにだけ。そしたら、ゆうかちゃんが……」

ちらりとゆうかをうかがい、千鶴が声を落とす。

「人間を信じるのがむずかしい、つて」

このちゃんはどきつとした。

人間を信じるのがむずかしい。ゆうかがそんなことを考えていたなんて。

「そしたらね、おばあちゃんが言ったの。簡単だよ、つて。人をゆるすことに

③上手になればいい、そしたら信じることもろくなるよ、つて。わたしはよくわかんなかったんだけど、それ聞いたら、ゆうかちゃんが急に泣きだして……」

千鶴がまたゆうかをチラ見する。

「なんとなくだけど、たぶん、美奈ちゃんのこと」

「美奈ちゃん?」

「思いだしたんじゃないかな。ゆうかちゃん、ずっと気にしてたから」

「え」

「ひどいこと言っちゃったつて」

その声にあおられたように、ゆうかが一段と泣き声のボリュームをあげる。そういえば、このちゃんは思った。このところ、ゆうかと美奈がいつしよにいるのを見かけない。代わりに、ゆうかはいつも千鶴たちのグループにいる。ふたりになにかあったのか。

気になる。が、このちゃんにはカフェテリアにいる人たちのことも気になった。ボランティアとしてここにいる以上、いまは自分たちの問題よりも、話し相手としての役目をはたすこと、少しでもお年よりたちをばげますことを考え

(時間 問題用紙二枚で五十五分)

◎解答はすべて三枚目の解答用紙に記入しなさい。

なきやいけないのでは、と。

「ゆうかちゃん」

そこで、体育会系のノリにならないよう、声のトーンに気をつけながら言った。

「このことは学校にもどつてから、ゆつくり話さない? きつと、まこちゃんも相談のつてくれるよ。④とりあえずいまは、カフェテリアにもどろう。ね、おばあちゃんたち、心配してるよ」

またはねつけられるのか。内心びくびくしていたものの、ゆうかは「d」うなずいた。

「うん。わかった」

洗面台の鏡ごしに、ゆうかの赤い目と目が合う。

「このちゃん。さつきはごめんね。やなこと言っちゃつて」

「え? ううん、ぜんぜん」

「あたし、チームSでよかったつて、いまは思う。あのおばあちゃんに会えたから」

ぼろり。言いながらまたほおに涙を伝わせる。

ゆうかちゃんつて、いろんな意味で、すなおな子なんだな……。いつも素通りしていた家にはじめて上がったみたい、このちゃんはこのとき、⑤ゆうかという子の奥の部屋まではじめて足をふみ入れた思いがした。おなじクラスにいても、気づかなかつたこと。毎日、教室で顔を合わせつづけた八ヶ月よりも、今日一日の発見のほうが大きかつた気がする。

さらなる「気づき」がもたらされたのは、ゆうかがトイレトーパーで鼻をかむのを待つて、いつしよにカフェテリアへもどつてからだつた。

「あら、ほら、もどつてきたよ」

「よかった、よかった」

三人の帰りを待つていた車椅子のおばあさんたちが、ゆうかをかこんで、「e」しやべりだしたのだ。

「悲しくなつちやつたの? かawaiiそうに。かわいなお目々が真つ赤だよ」

「ごめんね。おばあちゃんが、悪い話をしちやつたのかねえ」

「十三歳なんて、一等、感受性が強い年ごろなんだよ。あたしらにもあつたっけねえ、そんな年のころが」

「ジュース飲む? おばあちゃんのアメなめるかい?」

このちゃんがふいをつかれたのは、口々にゆうかをばげますおばあさんたちが、どこか生き生きとして見えたことだ。涙もろい女の子を心配しながらも、その声にはよゆうとハリがあつた。さつきこのちゃんに話をしてくれたおばあさんも、にこにここと目じりをたらしつてゆうかの手をさすっている。

⑥あ、そつか。

老人たちのまんなかではにかむゆうかを前に、この日、はじめてこのちゃんの顔から笑みが消えた。

(森 絵都『クラスメイツ』による)

問一 【a】eに入る最も適当なことを、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア すんなりと

イ 急に

ウ じよじよに

エ いっせいに

オ とつさに

問二 ②で、なぜ「このちゃん」は「撤回」した(取り消した)のでしょうか。答えなさい。

問三 ①と④で「このちゃん」は「とりあえずいまは」という発言を二回もしています。この発言からうかがえる「このちゃん」の性格を説明しなさい。

問四 ⑤の「ゆうかという子の奥の部屋」とはどういう意味ですか。簡潔に答えなさい。

問五 ⑥で、「あ、そつか」と気づいたことは何なのでしょうか。部をふまえて説明しなさい。

問六

③「上手」は「じょうず」と読みますが、「うわて」・「かみて」とも読めます。次の〇〇に同じ漢字で異なる読みをする熟語を入れなさい。

① 火を通していいない〇〇は食中毒に注意しよう。

② 地球上の様々な〇〇の命はみな等しく大切だ。

③ 今日が入学考査の〇〇だ。

④ 元日の朝に〇〇の出を拝みに山に登った。

⑤ こどもたちに〇〇のキャラクター

⑥ 〇〇の暗い道を通らねばならない。

⑦ 〇〇さんに部屋代を払う。

⑧ 書道の〇〇。

考 查 番 号

問

問
二

三

問四

問五

問六

問

問
一

問三十一問四

問五

問六